会報第5号

「産奥会」通信

「産奥会」同窓会　旧 岩手県立高度技術専門学院 岩手県立産業技術短期大学校水沢校　平成25年(2013年)10月 発行

事務局／〒023-0003　岩手県奥州市水沢区佐倉河字東広町66-2
岩手県立産業技術短期大学校水沢校内　TEL：0197−22−4422
ホームページ：http://www.san-oukai.net/　印 刷／あべ印刷株式会社

「産奥会」同窓会 設立5周年を迎えて

同窓会長　菊池 正紀

秋冷のみぎり、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年は、『産奥会』同窓会設立5周年にあたりますが、『産奥会』通信もおかげさまで設立以来毎年発行しており、今回は第5号を皆様にお届けすることとなります。会員からの便りのほか母校の今もお伝えすることができ、ご好評をいただいております。今号は、「同窓会と母校 この一年」に1頁を割き、母校の紹介コーナーを充実させました。母校の今の姿を紙面で感じていただければ幸いです。

さて、『産奥会』は平成20年8月に学院同窓会と水沢校同窓会の統合による新生同窓会として発足し、会員総数1098名でスタートしました。(学院会員1013名＋水沢校卒会員85名)。

今年3月までに、母校は既に通算22期1463人(学院14期1013名、水沢校8期450人)の社会に貢献する人材を輩出し、主に産業界で同窓生が活躍されています。

ここ数年は、同窓生が母校を訪れ母校事業に協力する機会も出てきました。同窓会としても、多くの同窓生が母校の活性化に協力することは望ましいことであると考えます。

なお、来年は水沢校開校10周年を迎えますが、同窓会としても母校の記念事業等を支援していきたいと考えています。

また、来年度は定例総会開催の年ですが、平成26・27年度期の予算及び事業計画を審議することになります。学院同窓会設立以来の同窓会自主事業である同窓会館建設についても見直しを含めた検討を進めていかなければと考えています。そのためには、同窓会役員だけではなく広く会員皆さまのご意見等が是非必要になりますので、皆様には機会あるごとにご協力、ご教示いただければ幸いです。

最近は、ソーシャルネットワークの普及に伴い、フェイスブックなどを利用して同志のグループを組んで交流を図ることも多くなっているようです。同窓会においても出身科、同期、地域等々の思い思いのグループによる交流の輪が広がっていき、ひいては同窓会ネットワークの充実も図れるのではないかと願っています。

最後になりましたが、本号を発刊するにあたり、多くの方々にご尽力いただきました。心より感謝しお礼を申し上げます。そして、母校と同窓会員皆様の限りない発展と、ご多幸を心よりお祈りし、ご挨拶といたします。

平成24年度 寄贈 夜間照明機能付屋外掲示板

産奥会から平成24年度の母校(産技短水沢校)支援品として屋外掲示板を寄贈しました。

掲示板により産技短水沢校の行事やイベント情報等を外部に周知したいとの母校からの要望に応えたものです。

屋外掲示板(掲示枠サイズ：ヨコ約1.8m×タテ約1.1m)はキャンパス正門南側に設置され、夜間照明装置がついています。

この照明装置は、電気技術科(宮澤篤玄、村上信吾両君)の卒業研究の一環として製作されたものです。太陽光発電から掲示板内照明までのシステム一式を設計から組込みまで行っています。能力は、日没後約5時間の照明使用時間となっています。

贈呈式は平成24年9月末の学園祭において行なわれ、菊池会長から馬場校長へ目録が渡されました。

平成25年2月に掲示板の設置と夜間照明システムの取付けが完了しています。

同窓会と母校　この一年

平成24年度

9月
- 同窓会報『産奥会』通信第４号発行
- 第32回本田宗一郎杯 HONDA エコ マイレッジ チャレンジ2012の出場 ①
  （エコラン部生産技術科２年６名）
  ツインリンクもてぎ スーパースピードウェイ
  （栃木県芳賀郡茂木町にて）
- 『産奥会』同窓会平成24･25年度期定例総会の開催
- 特別講演「震災復興とこれからの岩手県の産業」の開催（１・２年）
- 「学園祭」楽園祭2012の開催 ②（同窓会支援事業）
- 『産奥会』から母校へ学生活動の支援品（屋外掲示板）を贈呈

10月
- 第18回日本ＥＶフェスティバルの参加 ③
  （生産技術科２年２名）
  筑波サーキット･コース2000（茨城県下妻市にて）
- 第50回技能五輪全国大会の出場 ④（建築設備科２年２名）長野県松本文化会館（長野県松本市にて）
- 校内就職ガイダンス（１学年）の開催（先輩と語る会の実施）

11月
- 推薦入学試験第Ⅱ期の実施（水沢校・矢巾校）
- 被災地支援ボランティア活動（建築設備科学生・職員）陸前高田市にて住宅・側溝の泥だしや草刈り等の作業

12月
- 海外研修（１学年）の延期（中国情勢悪化により次年度へ延期）
- 同窓会名簿発行事業の開始（同窓会名簿第１次調査カード送付）

2月
- 卒業研究発表会の開催
- 第11回東北ポリテクニックビジョンの参加 ⑤
  （卒業研究・作品の発表、旋盤競技会）東北職業能力開発大学校（宮城県栗原市）
- 産技短展の開催（岩手県民会館にて卒業研究作品等の展示）

3月
- 平成24年度卒業式（８期生55名）・卒業を祝う会の開催 ⑥
- 『産奥会』同窓会平成24･25年度期第１回臨時総会の開催
  同窓会長から卒業生へ卒業記念品の贈呈（名刺入れ）

平成25年度

4月
- 平成25年度入学式（新入生49名）

5月
- クラスマッチの開催 ⑦（総合優勝 電気技術科１年）

6月
- キャンパス見学会の開催 ⑧（参加高校生と卒業生との情報交換実施）

7月
- 被災地支援ボランティア活動 ⑨（陸前高田市にて建築設備科）
- キャンパス説明会の開催（参加高校生と卒業生との情報交換実施）
- 被災地支援ボランティア活動「遊び・学び舎」へ学生有志参加（種山高原星座の森キャンプ場・陸前高田市箱根山にて）
- 高大連携事業の実施 ⑩
  岩谷堂高校生徒15名が体験入学（生産技術科・電気技術科で体験授業）

8月
- 第８回若年者ものづくり競技大会（全国大会）機械製図（CAD）部門の出場（矢巾キャンパスにて）
  生産技術科１年髙橋義斗君、宮里沙夏さん
- 企業実習（インターンシップ）の実施（１学年）

9月
- 制御盤組立検定2級の受検 ⑪（電気技術科２学年）
- 第Ⅰ期推薦入学試験の実施（釜石市にサテライト会場設営）

①第32回本田宗一郎杯 HONDA エコ マイレッジ チャレンジ2012（H24年9月15日･16日）

- エコランカーの省燃費競技会（卒研「エコランカーの改良」の一環として出場）
- エコラン部（古里知之、勝部翼、菊池裕輔、机地祥貴、藤原直也、菅原駿君）
- 決勝成績:大学･短大･高専クラス90台中30位　記録:390.054km/l（1リットル換算値）

②学園祭「楽園祭」2012（9月29日･30日）

岩谷堂高校鹿踊り（9月30日）

③第18回日本EVフェスティバル（H24年10月20日）

- コンバートEVバイク（原動機変換装置型電動オートバイDCモータ･6馬力）の展示&デモンストレーション（卒業研究「コンバートEVの性能評価」の一環として参加）生産技術科 藤本裕太、藤原直也君
- 展示とデモンストレーション走行により産技短水沢校の取組みを全国的にPR.

④第50回技能五輪全国大会（平成24年10月26日～29日）

配管職種（27日）に阿部真人君と菅原勇君が岩手県代表として出場

⑤第11回 東北ポリテクニックビジョン（平成25年2月15日･16日）

技術競技会
■旋盤技術競技会出場
（生産技術科2年 佐藤誠耶君）

総合制作･研究発表
■ハブダイナモを用いた小電力タイプ水力発電機の製作
（気技術科2年 後藤仁、早坂豪人君）
■エコランカーの改良
（生産技術科2年 菅原駿、机地祥貴君）
■コンバートEV性能評価
（生産技術科2年 藤原直也、藤本裕太君）

作品展示
■ラチェットディバイディング機構モデル
（生産技術科2年 古里知之君）

⑥卒業式･卒業を祝う会（平成25年3月15日）

本館棟2階ホールにて開催（卒業生、保護者、職員が参加）

⑦クラスマッチ（平成25年5月29日･30日）

⑧キャンパス説明会（H25年6月22日･7月20日）

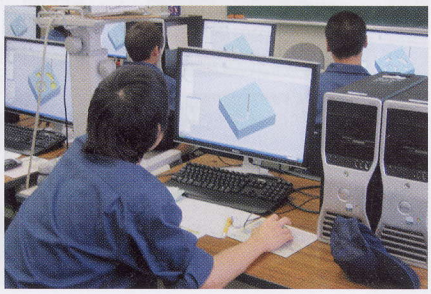
学生時代や仕事の体験などを紹介しているH23年度電気技術科卒業の鈴木瑞乃さん（6月22日）

⑨被災地支援ボランティア活動（平成25年7月5日）

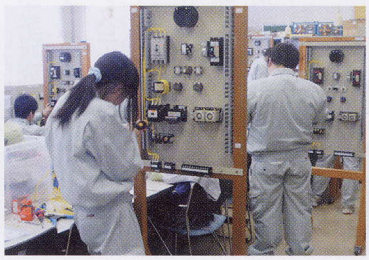
側溝の泥上げ作業に汗をながす学生・職員

⑩高大連携事業（H25年7月29日･30日）

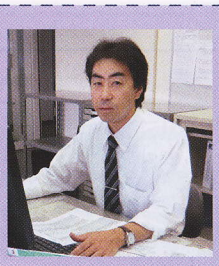
高校生のインターンシップの一環として初めて実施する高等学校と産技短水沢校との連携事業



⑪制御盤組立2級技能検定（H25年9月4日･5日）



会員からの便り



太陽電機株式会社
(システム販売事業部システムコンポ販売課)
亀谷明広（かめや あきひろ）
(平成3年度・制御システム科卒)

入社の頃を振り返って … いつの間にか

会社の組織は大きく分けて、制御機器、電気・電子部品及び機械部品を販売する商社部門（花巻本社、一関・秋田・静岡県東富士・宮城県大衡事業所）と、自動機制御装置、省力化機器及び制御盤の設計・製造を行うシステム販売事業部の２部門で主に構成されています。

現在所属しているシステムコンポ販売課の業務内容は、お客様へのメーカー代行営業、技術サポート及び制御設計のシステム提案を行っています。

また、当社は数社のメーカーと代理店契約を結んでおり、メーカーの認定を受けたＳＥ（セールスエンジニア）を配置しなければならないことになっています。社内では当課がこのＳＥ専門部隊としても位置づけられています。

学生時代を振り返ると、現在の仕事に就いていることが不思議に感じられます。入社して直ぐ、技術色のある部署という事で現在の部署に配属されましたが、始めは営業業務が中心でした。

本来、人前に出る事などあまり好まない性格で、ものを売るよりものを作る方に喜びを感じていました。ですから「自分は営業に合わない」と思い、数年で辞めるつもりでいました。更に、担当するメインの取り扱い商品が、学生時代に不得意だったプログラマブル・コントローラーです。どちらかというとマイコンが得意と思っていた自分にとって辛い部署でした。

実務では、お客様からのお問い合わせに対して回答しなければなりません。そのため、学生時代にはあまり習わなかった使用方法、機器など全てが勉強でした。日々、新しい製品情報や商品をメーカーへの電話による問い合わせで、半ば強制的に習得させられたようなものです。

そうこうしている内にいつの間にか、当社主催の講習会で不得意だったプログラマブル・コントローラーの講師を務める知識・技術が身についていました。

卒業時は、地元（気仙沼市）に戻らないで高度技術専門学院で学んだ事をこの地で活かして行きたいと考えていました。結果、今の職場に落ち着いています。今では、多くのことを教えてくださったお客様をはじめこの岩手へ少しでも貢献できるように日々の仕事をこなして行きたいと思っています。

小野寺巧（おのでら たくみ）
(平成20年度・建築設備科卒)

『建築設備設計基準』がバイブル

卒業生、クラスメイトの皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

現在、東北では震災復興・復旧の工事が多々ありご多忙の方も多いかと存じ上げます。

私が卒業して、現在の会社に入社してから５年が過ぎようとしていますが、日々勉強の毎日を送っています。

業務の内容が設備設計と言うこともあり復興・復旧業務に携わる機会が多いです。工事現場や打合せの際には、水沢校卒業生や学院卒業生の方々とご挨拶する場面も多々あり、ついつい在学当時の思い出話になってしまうこともあります。

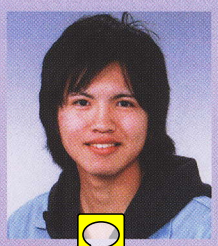
入社してからは、主に機械設備の設計や現場の監理をしておりますが、わかないことだらけで上司や先輩に訊いたり、参考書を調べてまわる毎日でした。

在学当時から授業で使用した『建築設備設計基準』という本は今でも参考にすることが多く、バイブルに思えるほど活用しています。

在学中も今も変わらず資格取得には力を入れておりますが、仕事と両立させるのは中々うまくいかず、何度もチャレンジしています。

在学生の皆さんは、インターンシップなどの実際の職業に係わる機会のときは積極的にいきましょう。短大で学んだ専門知識は社会に出てから簡単に理解できるものではありませんので、勉強で資格取得できる環境を大切にして、なおかつ有意義な学校生活をお過ごし頂ければと思います。

最後に、卒業生の皆様、これからこの業界に進む在校生の皆さん。震災復興・復旧や建築業界を盛り上げていけるようにがんばりましょう。



ファインクラー東北㈱
奥村政範（おくむら まさのり）
(平成24年度・電気技術科卒)

母校で学んだことを自信にして

私は、この３月に大変お世話になった産技短水沢校電気技術科を卒業しました。

社会人となって数カ月が過ぎ、会社の仕事や雰囲気にも慣れてきたところです。優しい先輩にも恵まれて、叱咤激励されつつも忙しい日々を送っています。

２年間という短い期間で私が学校で学んだことは、多くはなかったと思います。しかし、社会に出てみると、母校で過ごした何気ない日常の会話や、先生方の言葉など勉強では教わることのできない多くのことを無意識のうちに学んでいたと思われる時があります。社会に出て、身近な人たちととっていたコミュニケーションがどれほど大切なのか、最近はよく身にしみて感じるようになりました。

現在の職務は、産技短で学んだ専門知識を活かせる場面は多くはありません。むしろ知らないことばかりで、毎日が新しいことだらけです。しかし、母校で学んだことは決して無駄になることはないと思っています。むしろ、学んだこの知識は自分の自信となってくれています。

在校生の皆さんが、この先どういった進路に進むかわかりませんが、今自分が出来ること、やるべきことをひたむきに努力していけば結果はどうあれ、努力した分は必ず自分の力となって返ってきてくれるものだと思います。

先ほども言いましたが、２年間は本当に短いものです。だからこそ、悔いの残らない楽しく充実した学生生活を送ってほしいと思います。

最後に、「どんなことも自分を信じ前向きに頑張ってください」とエールを送ります。

先生からの便り

制御システム科（H8～H12年度）
生産技術科（H23年度～現在）
継枝正行（つぐえだ まさゆき）

震災から２年半が過ぎましたが、卒業生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、私事ですが、一昨年に水沢校勤務に戻りました。約10年ぶりの市街地は、様子が変わり校舎の近隣には、CMでお馴染みの大型の商業施設が建ち並ぶ中、校舎は変わりなく懐かしさを感じました。

また、その年の学園祭でも10数年前の制御システム科卒業生数人に、明るく覇気のある声であいさつされ、瞬時に当時を思い出させてくれました。当時を思い出し、今の彼ら見ながら立ち話しをしました。卒業以来、就職先は変わらずに頑張っているとのことでした。学生時代には、卒業目前に無鉄砲に思える行動をして、将来を心配した記憶も蘇りました。また、合間に照れくさそうに渡してくれた名刺からは、他人に対して責任を持つ立場であることも分かり、頼もしくも感じました。

話は変わりますが、NHKの朝の連ドラは、「おしん」（ちょっと古いですが）を代表に、ご当地の様子や人間模様を色濃く映し出しています。NHKのドラマも「おしん」以降は右肩下がりの視聴率のようです。

今年は、震災復興の一助としてでしょうか、制作された「あまちゃん」は視聴率も良好なようで、被災地に足を運ぶ観光客が増えているそうです。周囲から聞く話より、身近に共感できる点が多いことが視聴率の高い理由の一つだと感じました。残念ながら９月でドラマが終了するようですが、観光客が継続的に足を運んでいただければと願うばかりです。

取り留めのない話になりましたが、震災から２年半が経過し、復興への道を歩き始めたばかりです。被災地以外の地域の方が、被災地に寄せる思いは日々変わっているように感じます。卒業生との再会で私自身、日々の出来事に一喜一憂せず、日々大切に積み重ね、長いスパンで取り組むことが将来につながると改めて感じました。

被災者として、県民として被災地を支えている卒業生の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念しております。

■平成24年度卒業生の状況（人）

科　名	卒業者数	就職希望者（うち女）	就職者（うち女）	就職率（うち県内）	H24年度卒　就　職　先　等
生産技術科	20	19	19	100.0%（78.9%）	㈱トスネット盛岡営業所、㈱エイワ、㈲テクニス精機、㈱ユーテムプレシジョン、㈱長島製作所、㈱サクシーディング、㈱ハローワーク、㈱アイオー精密、三司馬物産㈱岩手営業所、㈱平野製作所、㈱東北パワージェクト、㈱広沢製作所、㈱アイメタルテクノロジー、竹内真空被膜㈱、パンチ工業㈱、㈱東洋工機、㈱日ピス岩手
電気技術科	17	17	17	100.0%（52.9%）	岩手電工㈱、勝田電設工業㈱、㈱ツクバ、㈱興和電設、ファインシンター東北㈱、㈱アーアル研究所、東北電力㈱、サンワテクノ㈱、新日本製鐵㈱君津製鐵所、㈱夢テクノロジー、東日本機電開発㈱、㈱ベン、東洋ワーク㈱、日本リーテック㈱、㈱金澤電気工業所、㈱アイメタルテクノロジー
建築設備科	18	16(1)	16(1)	100.0%（81.3%）	㈲東環、東北住建㈱、㈱双葉設備アンドサービス、㈱ワールド設備機器、㈱千葉建設、㈱佐々儀、東北公営企業㈱、㈱太平エンジニアリング東北支店、ＥＣ南部コーポレーション㈱、佐野建設㈱、髙惣建設㈱、㈱セントラル設備機器、㈱武田菱設計、サンワテクノ㈱、旭管工㈱、㈱晃和工業
計	55	52(1)	52(1)	100%（71.2%）	（進学者3名） 岩手県立産業技術短期大学校産業技術専攻科 関東職業能力開発大学校応用課程 読売理工医療福祉専門学校

※ 県内就職率は求人事業所の所在地（県内・県外）による

■平成25年度入学生の状況（人）

科　名	定　員	応募者（うち女）	合格者（うち女）	入学者（うち女）
生産技術科	20	11	11(1)	9(1)
電気技術科	20	20	21	19
建築設備科	20	12(3)	23(8)	21(7)
計	60	43(3)	55(9)	49(8)

※応募者数は第1志望者のみ。合格者数は第2志望を含む。

■出身地別入学者数（人）

岩手県広域振興局		平成24年度（うち女）	平成25年度（うち女）
県央	盛岡地区（本局）	14（2）	15（3）
県南	花巻地区	7	4（1）
	遠野地区	1	2
	北上地区	9	5
	奥州地区（県南本局）	15	8（3）
	一関地区	3	4
沿岸	大船渡地区	2	5（1）
	釜石地区（沿岸本局）	2	5
	宮古地区	2	1
県北	久慈地区（県北本局）	1（1）	－
	二戸地区	1	－
岩手県外		－	－
計		57（3）	49（8）

トピック

黒石寺蘇民祭参加

平成25年2月7日夜から8日朝にかけて催された黒石寺蘇民祭に平成24年度在学生が厳寒の中参加しました。（生産1・木村裕太郎君、電気1・佐々木大尭君、電気2・早坂豪人君）

奥州FM出演

平成25年7月19日に産技短在学生（設備2・小川龍一君、電気2・菊地隼一君、生産1・宮里沙夏さん）が奥州FMゆきいろStationに出演して楽園祭2013と産技短推薦入試のPRを行いました。

編集後記

会員のみなさんこんにちは。

この度、新生同窓会『産奥会』の設立から5周年を迎えると同時に『産奥会』通信も第5号の発刊を迎えました。これも、会員からの便りなどをはじめ、寄稿にご協力くださる同窓生のみなさん、ならびに企画・編集にご協力くださる母校事務局のおかげです。大変ありがとうございます。

第5号は、構成を一部変更して「同窓会と母校」この一年を少しビジュアルにしてみました。次号に向けて構成・内容に皆さんの意見・要望をお待ちしています。

編集委員長　高　橋　　充（平成17年度建築設備科卒）

産業技術短期大学校水沢校異動情報
（平成25年3月）

【退　職】
・下屋敷　正　樹　　副校長
・大　畠　　齊　　事務局長

【転　出】
・三　浦　公　嗣　　建築設備科
（産業技術短期大学校矢巾校　メカトロニクス技術科へ）
・大　洞　　幾　　生産技術科
（宮古高等技術専門校　金型技術科へ）
・遠　藤　俊　明　　生産技術科
（二戸高等技術専門校　自動車システム科へ）
・熊　谷　　剛　　電気技術科
（産業技術短期大学校矢巾校　メカトロニクス技術科へ）
・菅　原　敏　美　　事務局
（岩手県沿岸広域振興局　大船渡健康福祉センターへ）

【転　入】
・及　川　伸　一　　副校長
（岩手県議会事務局から）
・大　澤　宣　典　　事務局長
（二戸高等技術専門校から）
・松　尾　才　治　　生産技術科
（産業技術短期大学校矢巾校　メカトロニクス技術科から）
・齋　藤　裕　之　　生産技術科
（宮古高等技術専門校　金型技術科から）
・佐々木　　治　　電気技術科
（産業技術短期大学校矢巾校　メカトロニクス技術科から）
・齊　藤　　理　　建築設備科
（産業技術短期大学校矢巾校　メカトロニクス技術科から）
・西　村　明　美　　事務局
（岩手県県南広域振興局　総務部経理課から）

お知らせ

① 1年前から準備してきた『産奥会』会員名簿が今年度中に会員皆さまにお届け出来そうです。作成にあたり会員皆さまのご協力ありがとうございました。

② 来年度（平成26年度）は定例総会が開催されます。開催周知は『産奥会』ホームページ（http://www.san-oukai.net/）でお知らせします。